

平成 22 年度 植山つる児童福祉研究奨励基金 募集要項

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

1. 趣 旨

児童福祉の実践処遇の仕事に情熱をもやし、自らの技術と専門性を高めるために積極的に研究活動に励む保育士等職員の研究活動を奨励するために、研究費の一部を助成する(研究期間は1年間とする)。

2. 対 象

研究 A(自主研究)

- ・ 児童福祉施設に働く職員。(個人・施設・グループ・団体)
- ・ 児童福祉に関する自主研究。

研究 B(専門研究)

- ・ 児童福祉施設に働く職員。(施設・グループ・団体)
- ・ 児童福祉に関する自主研究であり、すでに基礎的な研究を終了し、さらに成果を発展させるための共同研究であること。ただし、学識者の協力を条件とする。

※個人を除く。また、今年度内に、同じ研究テーマで、他の研究助成の対象となっている場合も除く。

3. 助成金額

研究 A(自主研究) 各研究助成額は 20 万円以内。

年間助成総額 100 万円の予算において、若干名に助成。

研究 B(専門研究) 研究助成額は 100 万円以内。年間 1 件のみの助成。

4. 申請方法

助成希望者は、当基金所定の申請書(P. 8～)に必要事項をご記入の上、下記の植山つる児童福祉研究奨励基金・事務局宛に提出。

5. 申込み締め切り

平成 22 年 9 月 10 日(金) 必着

6. 研究報告

助成対象となった研究は、その研究成果の報告を所定の様式にご記入の上、植山つる児童福祉研究奨励基金運営委員会に提出する。その他、成果物等があれば添付すること。その成果については、各種別協議会の大会・研修会、また機関紙等で発表の場を設ける。

7. 研究報告書の提出締め切り

平成 23 年 9 月 2 日(金) 必着

8. 申込み先

社会福祉法人 全国社会福祉協議会 児童福祉部
植山つる児童福祉研究奨励基金運営委員会
〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル
Tel : 03-3581-6503 Fax : 03-3581-6509

9. 選考について

植山つる児童福祉研究奨励基金運営委員会において選考・決定し、選考結果は平成 22 年 10 月末に申請者宛に通知する。

《運営委員》(敬称略)

- | | | |
|-----|---------|----------------------|
| 委員長 | ・ 柏女 霊峰 | (淑徳大学 教授) |
| | ・ 飯島 俊勝 | (全国保育協議会 副会長) |
| | ・ 三上 智代 | (全国保育士会 副会長) |
| | ・ 山口 俊輔 | (全国児童養護施設協議会 副会長) |
| | ・ 水谷 暢子 | (全国乳児福祉協議会 制度対策研究委員) |
| | ・ 菅田 賢治 | (全国母子生活支援施設協議会 副会長) |
| | ・ 山田 秀昭 | (全国社会福祉協議会 事務局長) |

10. 著作権について

研究論文の著作権は、著者(研究者)に帰属する。また、研究論文集等作成する際の編集出版権および複製権は、全国社会福祉協議会が持つものとする。

植山つる児童福祉研究奨励基金 過去10年間の助成決定テーマ

研究テーマ	研究主体	年度
乳児の健やかな成長を願って —乳児が健康に過ごすためには—	県保育士会 保育内容研究会	12年度
児童養護施設における入所前の虐待体験と施設での生活状況に関する調査研究	児童養護施設	12年度
サービス水準に対する利用者の認識と満足度調査	母子福祉協議会 調査委員会	13年度
児童養護施設における情緒的課題を持つ児童への援助に係わる実践的研究	児童福祉施設連 盟養護部会	13年度
児童福祉におけるケースマネジメント —子どもの権利を守るネットワーク作り—	保育所・乳児院	13年度
母子生活支援施設の施設内外への援助の展開に関する研究—母子生活支援施設入所者と地域に暮らす母子家族との比較を通して—	母子生活支援施設	14年度
平成14年度東京の母子生活支援施設実態調査	母子福祉部会 調査研究委員会	14年度
罹患時における子どものトータルケアのあり方についてⅡ—安静を保ちながら、子どもの症状、発達に合わせて出来る遊びの工夫—	乳児院	14年度
【職員にとっての子どもの権利養護必携ノート】の必要性の調査と作成	児童養護施設	14年度
千葉県母子生活支援施設における福祉サービスの『第三者評価』に向けた「評価基準」	母子生活支援施設	15年度
児童養護施設児への金銭教育	児童養護施設	15年度
全国自立援助ホームの実践紹介—自立援助ホームにおける「自立援助」とは何か—	自立援助ホーム	15年度
地域で求められる子育て支援について	保育所	15年度
反応の乏しい児の乳児期から幼児期にかけてのわらべ唄遊びによる成長発達の変化	乳児院	15年度
児童養護施設児への金銭教育	児童養護施設	16年度
心理療法的側面による事例研究	母子生活支援施設	16年度
社会福祉施設における社会福祉士実習指導のあり方について	母子生活支援施設	16年度
楽しく食べて生命輝く子どもに—乳幼児期からの食習慣を大切にし、食への関心を高めるために—	保育所	16年度
気になる子どもを通して、保育者の援助のあり方を考える—生活リズムと運動遊び—	保育所	16年度
乳児院における問題行動とその要因に関する研究	乳児院	16年度
地域小規模児童養護施設における自立に向けての成長プロセス	児童養護施設	17年度

「気になる」子どもへの保育支援について一個と集団を捉える保育者の視点から―	保育所	17年度
社会福祉施設における社会福祉士実習指導の標準化に向けた検証	母子生活支援施設	17年度
新たな社会的養護としての地域分散型サテライト児童養護の実践	児童養護施設	17年度
アナフィラキシーショック既往歴がある子どもの食事と、他児との違いが気になりだす年齢からの心理的ケア	保育所	18年度
幼児の生活と疲労に関する研究―朝の快いスタートと生き生きとした生活実践のための保育プログラムの検討―	保育所	18年度
児童養護施設における外泊に関する研究―縦断的検討も含めて―	児童養護施設	18年度
大阪市の児童入所施設における処遇指標（平成12年度版）の再検討（今日的課題）	児童養護施設	18年度
母子生活支援施設における効果的な自立支援計画策定に関する調査研究	母子生活支援施設	18年度
「気がかりな子ども」に対しての個々の環境を考える―子ども達にとって育ちやすい環境とは―	保育所	19年度
違いを認め、理解しあう保育・一人ひとりが主人公になれる保育支援を目指して―クラス集団にかえす小グループ保育の研究・実践―	保育所	19年度
児童養護施設における入所児童と家庭との交流の経過に関する研究―退所したケースの検討も含めて―	児童養護施設	19年度
グイン・ホームにおける、被虐待児と発達障害児の自立支援計画の作成	児童養護施設	19年度
社会的養護入所児童の自立援助計画表の標準化に関する研究―乳幼児期に焦点をあてて―	乳児院	19年度
幼老複合施設における高齢者と幼児の世代間交流の効果に関する研究	保育所	19年度
大学との連携による食育活動	児童養護施設	20年度
家庭における育児不安や、親の悩みなどについての実態調査	県保育協議会	20年度
昼寝後の午後保育の見直しと一日の保育の再検討―保護者とのかわりの中で―	保育所	21年度
母子生活支援施設における母親及び児童のためのエンパワメントプログラムの実践と効果―	母子生活支援施設	21年度
ユニット型児童養護施設における施設環境が子どもに与える影響の研究	児童養護施設	21年度

平成 20 年度 助成対象者研究報告書概要

【児童養護施設】

研究 の 種 類	研究テーマ・研究概要報告	研究者(敬称略)
研究A (自主 研究)	<p>大学との連携による食育活動</p> <p>児童養護施設で暮らす子どもたちは、衛生管理の面から自ら食事を「つくる」体験が難しい環境の中、子どもたちの食生活の自立に向け、「つくる」体験を重視した食育事業を近隣の大学との協働で行った研究事業である。なお、平成 19 年度から自主研究として実施している。</p> <p>【研究内容】 平成 20 年度は、岡山市内の児童養護施設 3 施設から、それぞれ児童 3 名と職員 1 名、大学からは、保育・教育者を目指す学生ボランティア 10 名と教員 5 名が参加し、食の基本となる主食、米を中心に置いた食育プログラムを、子どもの特性等に配慮したプログラムを企画した。具体的には、①米を鍋を使って炊くことができる技術、②米に合う副菜を作ることができる技術の習得を柱とし、発達障害のある子どもにも分かりやすく調理の注意事項や興味を喚起するような教材づくりに学生ボランティアが中心に取り組んだ。また、食べものの生産から食卓までの食の循環性を体験的に学べるよう、岡山県農林業実践学習の里「体験学習農園」において合宿を行った。</p> <p>【研究成果】 ①食育プログラムの実施による成果では、子どもたちが回数を重ねるごとに「つくる」ことに対する興味・関心を持ち、自己効力感が高められた。また、食事の場面では、自分の作った料理を食べてもらうという体験も加わり、「つくる」とつながった「食べる」ことへの満足感も得ることができた。さらに、施設に戻ってからも、食育プログラムで学んだことを、未参加の子どもたちへ話す場面がみられ、プログラム未参加の子どもたちへの波及効果があった。 ②子どもたちと学生ボランティアとの関係づくりという点では、担当制をとったことにより、安定した状態を保って活動が行えた。また、継続的なかかわりをおして、学生がそれぞれ担当する子どもたち一人ひとりにあった言葉かけや対応の仕方を学ぶことができた。子どもたちも、特定の学生を、「自分たちのお兄ちゃん・お姉ちゃん」として関係を深めていくなかで、回を追うごとに、より積極的に参加するようになっていった。</p> <p>【課題】 今後は、本研究事業が子どもたちにもたらした効果の検証と、施設外での活動の意義を明確にしていくことが必要であると思われる。</p>	岡山市善隣館 野上晃司

【保育所】

研究 の 種 類	研究テーマ・研究概要報告	研究者(敬称略)
研究B (専門 研究)	<p>家庭における育児不安や、親の悩みなどについての実態調査 保護者が求める子育て支援とは～親の心に寄り添う支援をめざして～</p> <hr/> <p>子どもの育ちをめぐる環境が大きく変化する中、保育所の保護者を対象に平成 19 年度に「子育てに関するアンケート」を実施した。平成 20 年度は、アンケート結果を基に、子育てに対する不安や子育ての価値観などについて把握するとともに、保護者支援や子育て支援の課題や方法について研究を行った。</p> <p>【研究方法の概要】 県内の地区組織より選出された調査研究委員 11 名と学識者により「アンケート集計の分析と考察」を行った。なお、アンケートは山形県を 4 圏域に分け、各 3 施設、計 12 カ所において、3 歳以上児の保護者、744 人を対象に実施した。回収数は 574 件(回収率は 77%)であった。</p> <p>【研究成果】 調査を始める時点では、子育て中の保護者は、子どもに求めることと現実の子どもの姿のギャップに戸惑いや不安を抱えているのではないかと、あるいは子育てより保護者自身の時間や生活を優先する傾向にあるのではないかと予測していた。ところが、アンケートを集計していくなかで、子どもを無条件に「かわいい」と感じており、子育てを楽しんでいる保護者が多くいるということがわかってきた。</p> <p>しかし一方では、子どもの言動にショックを受けたり、子どもの内面が理解できないため不安を感じている保護者の実態が見えてきた。このような不安は、「初めての子育て」の保護者に多くみられ、子育て経験との関連性があることがわかった。</p> <p>また、三世代同居率の上位の地域である本県は祖父母による協力が多く、子育てしやすい環境ではないかと予想したが、実際には家事への協力が少ないと感じ、不安や悩みを打ち明けられず、その環境自体がストレスになり、子育てを辛く負担となっている現状が見えてきた。更には、子育ての相談相手は友人が多いという結果から、子育て支援を担っている保育所の役割と保育士の援助のあり方の課題が見えてきた。</p> <p>また、保育所が担う子育て支援として、保護者を取り巻く家庭・職場・地域・行政などの社会に対して、保護者の子育てへの思いや願いを伝えていき、子育てしやすい環境づくりのための取り組みが必要であると思われる。</p>	山形県保育協議 会

申請書（研究A・研究B）

※ 希望する研究助成の申請書様式の記入例を参考に、
コピー、または切り取ってお使いください。

研究A・・・P. 9 － P. 10

研究B・・・P. 11 － P. 12

平成22年度植山つる児童福祉研究奨励基金申請書(研究A・自主研究)

フリガナ 申請者氏名	(印)	職名	経験年数	年	ヶ月
所属施設名					
所在地	〒				
	TEL:	FAX:	E-mail:		
研究テーマ					
共同研究者 氏名・役職名					
研究課題・意義 ・児童福祉の実践処遇の中で、現在どのようなニーズや課題があり、それを解決することに何の意義があるのかを具体的に述べてください。 ・その課題についての先行研究があれば、それと関連付けて記述してください。 ・専門用語や造語を多用せずに、明確な文章を心がけてください。					
研究方法 ・研究課題に対応させる形で、その研究方法を述べてください。 ・抽象的に「～についてアンケートを行う」「ケース検討を行う」だけではなく、具体的な質問項目やケース検討のメンバー構成・内容・時間等についても明確に記述してください。 ・倫理的配慮が必要な研究の場合、それへの対策も述べてください。					
(This area is left blank for the applicant to provide details on the research topic, methodology, and other relevant information.)					

平成22年度植山つる児童福祉研究奨励基金申請書(研究B・共同研究)

フリガナ 申請者氏名	(印)	職名	経験年数	年 月
所属施設名				
所在地	〒			
	TEL:	FAX:	E-mail:	
研究テーマ				
共同研究者 氏名・役職名				
学識者 氏名・所属				
研究課題・意義 ・児童福祉の実践処遇の中で、現在どのようなニーズや課題があり、それを解決することに何の意義があるのかを具体的に述べてください。 ・その課題についての先行研究があれば、それと関連付けて記述してください。 ・専門用語や造語を多用せずに、明確な文章を心がけてください。				
研究方法 ・研究課題に対応させる形で、その研究方法を述べてください。 ・抽象的に「～についてアンケートを行う」「ケース検討を行う」だけではなく、具体的な質問項目やケース検討のメンバー構成・内容・時間等についても明確に記述してください。 ・倫理的配慮が必要な研究の場合、それへの対策も述べてください。				

